

- 1 対象作物 キク
- 2 対象病害虫 クロゲハナアザミウマ

3 供試虫および検定方法

(1) 供試虫

2012年8月23日に鹿屋市串良町の施設キクほ場から採集し、25℃、14L10Dの恒温室内で累代飼育した雌成虫を用いた。

(2) 検定方法

ア. 葉片浸漬法（雌成虫）

キクの展開葉を所定濃度薬液に浸漬、風乾後、直径5cmのペトリ皿に置き、雌成虫を10頭程度放飼した。放飼後のペトリ皿は25℃、14L10Dの恒温室に静置し、処理24、48、72時間後に生死を調査した。各処理区とも3反復行った。

4 検定結果の利用上の留意点

検定結果は鹿屋市串良町の1ほ場から採集したものに由来するため、薬剤感受性は地域やほ場によって異なることが予想される。

表1 クロゲハナアザミウマ雌成虫に対する葉片浸漬による薬剤感受性

薬剤名	商品名*	希釈倍率	補正死虫率**			
			24時間後	48時間後	72時間後	
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	有機リン	1,000	97.4	100.0	100.0
プロチオホス乳剤	トクチオン乳剤	有機リン	1,000	100.0	100.0	100.0
マラソン乳剤	マラソン乳剤	有機リン	2,000	17.9	24.3	25.1
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	97.0	100.0	100.0
クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	100.0	100.0	100.0
スピノサド水和剤	スピノエース顆粒水溶剤	その他	5,000	100.0	100.0	100.0
フィプロニル水和剤	プリンスフロアブル	その他	2,000	100.0	100.0	100.0
スピネトラム水和剤	ディアナSC	その他	5,000	100.0	100.0	100.0
対照区(水道水)			-	0.0	0.0	2.1

* 「きく」または「花き類」で「アザミウマ類」に対して登録のある薬剤（2012年12月5日現在）。

** 補正死虫率% = { (対照生存虫率 - 処理生存虫率) / 対照生存虫率 } × 100

注1) 対照区の値は実測値、その他の処理区はAbbottの補正式による補正死虫率を示す。

注2) 対照区を含む全ての区に展着剤のブレイクスルー(5,000倍)を加用した。